

魚類防疫に関する技術指導と研究

(魚病対策指導事業)

清川智之

1 研究目的

種苗生産・中間育成・養殖時に発生する魚病を予防し、被害を最小限に抑えるため、水産生物の疾病診断、防疫指導を通して、飼育担当者の防疫技術の向上を図り、魚類養殖増養殖を推進する。

2 研究方法

飼育担当者から持ち込み、または巡回指導時に入手した標本を検査に使用した。

3 研究結果

本年度の疾病検査結果は下表の通りであった。

	月 日	魚 種	場 所	疾病名・症状・指導内容等
平成 13 年	5 月 9 日	ヒラメ	仁摩町宅野	シュードモナス症
			大田市和江	ヒラメ中間育成中に発生。脳周囲、鰭基部の発赤を伴う。腎臓、脳から純培養状に本菌が分離された。
			大社町宇竜	
	5 月 10 日	ヒラメ	益田市	発生は種苗輸送に長時間かかった場所に限定されており、輸送によるストレスが発病を誘引したと推察された。抗生物質の経口投与の他、換水率や斃死魚の取り揚げのみで対応した場所もあったが、最終的には治癒した。
			浜田市	
			江津市	
	5 月 11 日	ヒラメ	鹿島町恵曇	イクチオボド症 シュードモナス症が疑われたが、脳周囲の発赤が認められず、菌は分離されなかった。粘液を掻きとって観察した結果、イクチオボドの大量寄生が確認された。過酸化水素製剤による薬浴を行った結果、速やかに治癒した。
	5 月 23 日	ヒラメ	鹿島町恵曇	滑走細菌症 鰭の欠損部、体表等を掻きとり検鏡した結果、ドーム状のコロニーが多数形成されていた。エルバージュによる薬浴で徐々に回復したものの、イクチオボドによる死亡も含め生残率は低下した。
8 月 23 日	オニオコゼ	鹿島町恵曇	ピブリオ病・滑走細菌症 TCBS 培地上に黄色いコロニーが純培養状に分離されたことから、ピブリオ病と診断された。着底後の生残率は 60%程度となった。	
11 月 13 日	オニオコゼ	浜田市	ピブリオ病・滑走細菌症 体表に本菌のコロニーが多数確認された。	
11 月 14 日	ヒラマサ	大社町御碕	連鎖球菌症 尾柄部、脳、腎臓から純培養状に本細菌が分離された。餌止め、密度を下げる等で対応するよう指導した。	
平成 14 年	2 月 28 日	カ イカ	鹿島町恵曇	不明 アワビが喫水付近に謂集し、殻を持ち上げるような行動を示した。TCBS、NA、HI 培地で細菌分離を試みたが分離されなかった。